

令和5年度 第2回湖南省生涯学習審議会 会議録

日時 令和5年（2023年）11月28日（水）

午後7時～午後9時10分

場所 西庁舎 3階大会議室

出席者 6人

委任者 5人

欠席者 1人

1 開会

（1）会議の成立

委員の過半数出席のため成立

（2）あいさつ

会長：（省略）

教育部次長：（省略）

2 報告事項

会長：9月8日に近畿地区社会教育委員連絡協議会滋賀大会がございました。参加された委員の方から報告をお願いいたします。

委員：9月8日に、立命館大学の方で、近畿地区社会教育研究大会がありまして参加しました。午前中に講師の方のお話を聞き、午後分科会に参加しました。講師の方は滋賀県にお住まいの方で滋賀県の文化審議会の委員をされていまして、著書も出されています。

「場づくりから始める地域づくり。」というような地域活性化のために、いろんな滋賀県内を回っておられます。そこでどんなふるさと作りができるかというようなこともお話にありました。

主に「ビジネスから無事ネスへ」というお話でした。ビジネスの方は私の会社とか、私はどう伸びていくかっていうことが求められますが、無事ネスの方はみんなにどう還元していくかということを考え、そういう地域社会でありたいということです。

大学生ともたくさん関わっておられまして、滋賀県のかなり田舎の方に、街の方が嫁いでこられて、そこで地域の皆さんと関わってその地域がどんどん活性化していくようなお話とか、結構興味深いお話をたくさんしてくださいました。

午後からは、家庭教育支援の分科会に参加させていただきました。大阪の親まなびの会のグループの方が発表されています。内容は、現代の子育ての話をされていまして、今ま

での子育てよりも今の子育ての方が本当に難しくなっている。子育てがどんどん孤独化してきていて、インターネット等で情報はどんどん溢れているのですが、親同士のふれあいとか、共感が少なくなってきた、子育てが難しくなっている。そういう現状があるので、親と一緒に話し合えるグループづくりをしていこうということで、自分たちで子育てについて話し合えるような教材を作って、子育ての悩みを出し合ったり、話し合うことで仲良くなったり、親が学び合うグループを作っていくという報告をされています。

話題をきっかけに、参加者がグループに分かれて話し合いをしました。その中で出てきた話題としましては、子どもの世話役の人がどんどん減ってきている。例えば昔は自治会でいろんな取り組みがあったり子ども会があったりとか、いろんな活動があったと。青年団とか、消防団など、いろんなところで世話役をする人が減ってきている。そういう中で昔は自然と先輩からいろんなことを誘われて、繋がっていたし教わってもいたが、どんどんできなくなっているという課題をお話されていました。かなり地域によって取り組みは違いますので、意見交換をすることがとても役に立つというふうに感じました。

委員：私も初めて参加しました。講師の先生はツカミが非常にうまい人で、漫才を見ているような感じで人をまず引込んでいかれました。「ここでともに無事に生きる」とのタイトルに沿ったようなお話をしておられたのと、私たちにも漫画のような人の絵を書かせるようなことで、手をまず動かすというようなこともされておられました。非常にいいお話だったのでぜひ機会があれば、湖南省の大会に来ていただければ良いなというふうに思います。今回の研究主題である「地域への愛着と誇りを育てる社会教育」ということにぴったりの先生を選んでおられるなと感じました。

それと、この大会の方に一つ要望ですが、場所を立命館に選ばれたのは少し最悪でした。一度車で行ったのですが関係者以外は駐車できませんと言われたので、もう一回南草津に戻って車をとめて、そこからバスに乗りなおして行きました。一番近い駐車場から 2.5 km ぐらいありましたが、そこに駐車して歩いている人がいっぱいいらっしゃいました。この人たちは多分二度と滋賀県には来ないと思います。大会関係者の人は自分たちが近くにとめられたから、そんなに不便はなかったのかわかりませんが、来た人はご不便だったのではないかと思います。次の大会は大津界限で、駅から歩いて 10 分が限界かなと思いました。次の大会の参考にさせていただきたいです。

会長：続いて 11 月 16 日に開催されました県の社会教育連絡協議会の理事会の報告について、副会長の方から事務局に届いていますので、事務局から報告をお願いします。

事務局：11 月 16 日に滋賀県庁で、近畿地区社会教育委員連絡協議会の第 4 回実行委員会と滋賀県社会教育委員連絡協議会の第 2 回理事会があり、委員から報告をいただいております。

実行委員会では、9月8日に開催された近畿大会の総括でアンケート結果と各分科会担当者からの報告がありました。初めて大学施設を利用した会場、昼食、全体会、分科会について、参加者の感想は概ね良好で、「学びがあった」と答えている方が8割から9割でした。分科会では、小グループでの討議という形で初めて試みたところ、各自思っていることや情報交換等、積極的に意見を出しあえて良かったという反面、グループの距離が近すぎて声が聞きとりにくかったり、話し合うテーマが漠然としすぎていたりして、何を議論すればよいのか戸惑ったという意見もありました。これまで分科会での担当の役員名を「助言者」、「問題提起者」としてきたが、民主社会を創造する社会教育委員会ならば、「助言者」は「協力者」、「問題提起者」は「提案者」に改めたらどうかという提案があり、来年度の大会への申し送りとして伝えることとなりました。

3 令和5年度湖南省の社会教育について

会長：令和5年度湖南省の社会教育について事務局の方から説明の方、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局：令和5年度湖南省の社会教育改定についてご説明いたします。前回、平成31年度に作成しました、湖南省の社会教育について、改定作業を進めています。これができましたら、湖南省の社会教育についてまとめたものとして、ホームページでの公開を考えています。

お手元の資料1をご覧ください。1ページから7ページが、平成31年度と令和5年度の新旧対照表となっております。8ページ以降が、平成31年度に作りました「湖南省の社会教育」の内容となっております。

今日は委員の皆様から、令和5年度の改定部分について、それぞれのお立場でご存知であったり、取り組まれていたりする内容等がありましたら教えていただきたく、ご審議いただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員：31年度版の11ページのところなのですが、市図書館協議会の委員長をさせていたでいるのですが、そことの関連性がどういうものかということをもまず教えてください。図書館のことをたくさん書いていただいているのですが図書館協議会で話したことがないことばかりです。今まで長年委員をやっているのですが、この話が出てきたことはありません。誰がどこでどう関わってくれるかという仕組みがわからないので、その辺をご説明いただき、まずそこからスタートしていきたいなというふうに思います。市の組織論でも結構です。あとで子ども読書活動の推進のところの質問をしたいのですが、まず今の湖南省図書館協議会と教育支援課の関係を教えていただければありがたいなと思います。

事務局：この湖南省の社会教育ですけれども、作るのが5年ぶりということで、前回作成した内容を各担当課に、現状はどうなっていますかと照会して、返ってきたような形になります。図書館の部分についても特に今新たにできているということではなく、この部分、現状どうなっていますかと図書館の職員に尋ねて、このような回答がありました。

委員：これと図書館協議会、関りが無いっていう理解でいいですか。図書館協議会が協議しないとイケない内容ばかりですが一言もないのに、こっちにはでき上がっている。私も生涯学習審議会委員になってまだ若いので、先にこれを知っていれば図書館協議会としてどうしていくかという話ができたのですが、そこを何も聞かされてないです。今、二館一館問題の方がウエイト高いのですが、こっちの中身の方が大事ですよ。ブックスタートも含めてどうしていくかということの方が大事なのに、その話はなおざりにして、二館を一館にしてどうしますかみたいな話を今、図書館協議会でしているのですが、もっと根本の部分でどういうふうにするかという議論が必要です。

教育支援課の下に図書館があるのでしょうか。

事務局：教育委員会部局の中に図書館も教育支援課もそれぞれ一つの課でありますので同等です。教育支援課の下に図書館があるということはないです。

委員：その辺がこの書き方を見てもよくわからない。図書館もこうやってくださいみたいなことが書いてありますので。別に下部組織であればそれに従ってやっていくということになるのですが、その辺は私も理解ができていないし、図書館協議会委員を長年やっていますが、誰も教えてくれたことはありません。

事務局：図書館がやっている事業を積み重ねていったものがここに記載されています。ブックスタートもしばらく今コロナ禍でお休みをしていたのですがね。

委員：もっと復活させましょうという話をしておられて、なるほどと賛同はしているのですが、大元のここに書かれている内容を知りませんでした。

事務局：湖南省の社会教育という大きなものの中に、図書館であったりとかその他のものであったり、図書館の組織についての中身は図書館協議会で議論された内容が、図書館の運営経費が入っているということです。

委員：図書館協議会は知っていないとイケないことなのですが、全く議論してないことがいっぱい書いてあるので、どうなのかなと感じました。これは完全に行政の帳面消しかなというふうに思っています。でも、これでは何も良くならないのですね。

継続との記載がありますが、何もやってないのに何で継続だと思っているのですが、この辺を本当に良いものにしていかないと、この組織が、うまく動いてないような気がします。今日のご意見でわかったので、また帰って館長とどこをどうしていくかという話を詰めていければと思っています。

事務局：今回の見直しも図書館に投げかけて図書館からの回答でということです。

委員：図書館長が最終仕切っているということでもいいですか。教育委員会が仕切っているというわけではないですね。そこからすると、11 ページ「子ども読書の推進、子どもの読書活動は創造力」云々と書いていて、「湖南省読書魅力種まきプランに基づき、事業の取り組みをさせていただきます」と書いているのは、これは図書館が言っているということですね。図書館協議会の中で種まきプランなんて話出てきたことがないのに、ここに書いているので、本来だと私が種まきプランはこんなことですよと、ここで皆さんお答えしないといけないのに私が質問しているというのは、おかしいなと感じています。書いてあることが間違いとか言っているのではなく、誰かが作文したものについて時間をかけて皆さんに議論してもらおうとは思っているだけです。

図書館が学習の場みたいなことに書かれているのですが、図書館としては、コミュニケーションの場にしていこうという方向へ転換しているのですね、そういうことが一切書かれていないのです。子ども読書の推進は、まず集まってくることを重要視したいなと思っているのですが、それが会議の中で一つ決まった意見ではないのですが、そういう方向性で図書館協議会の委員さんが思っていらっしゃるのですが、そこは出てない。あと、これは31年のものなので、両図書館になっているのですが、両図書館ではなくなるので、この辺の部分も入れていただかないといけないのかなと。

次、19 ページについて質問ですが、歴史文化遺産の保存と活用という部分で「継続2 番目の1-2の東海道、石部宿歴史民俗資料館の無料公開」と書いて、後ろに「石部宿まつり」と書いてあるのですが、この説明をしていただけますか。

事務局：資料4 ページをご覧ください。「2. 文化財を大切にする意識が持てるような取り組み、取り組みの推進」というところで、今まではその事業をやっていたようなのですが、商工観光労政課に確認させていただきましたところ、石部宿まつりが今年度イオンタウンの方で秋の楽市楽座になった関係で、大人の方のみ、そこにお越しいただいた方に、割引券を配布するという形でされたと伺っています。関西文化の日については、今まで通り無料公開でしていますということで伺っています。

委員：私は3大祭りの実行委員長なので、人が集まらないということで場所を移動させていただいたのですが、やはり石部宿については、もっと湖南省自身も力を入れてやってい

く事業にしていけないと駄目なので、やめるのではなくて、もっと熱心にやっていただきたいなど。だから、この文化財保護審議会が機能しているのかなというところも教えていただきたいなと思います。

委員：私が文化財審議会の委員なのでご説明します。

文化財審議会は、いわゆるジャンルでわかれていまして、建築、民俗、歴史、それから一般文化に分かれて、それぞれの専門家が、湖南省内のいろんな文化財について、諮問を受けています。それに対していろいろな答申をしています。現在も文化財審議会は、年に3回開催されて機能しています。

石部宿についても、当然諮問が出てきて議論をしています。ただ石部宿については、景観保存委員会もあるので、そちらの方でも審議しています。私は、景観審議会の委員でもあり、どちらも出席して、わかっていますけれど、おっしゃることは間違いではないです。石部宿の保存については、湖南省がそれほど具体的積極的ではないという印象は受けます。私、長浜市の委員もしていますから、例えば長浜市の景観保存等についても、保存するなら、家の体裁を変えるなら、このような補助金を出しますとか、そういうシステム作りがちゃんとしてあるのです。そういったところで具体性が弱い。近年では、宿場を歩く人がすごく増えていますが、多分歩いてみてがっかりされることも多いだろうというふうに思います。もっと厳しい条例によってとどめていかないと景観は残らないといった点は、審議会でもいつも申し上げているところです。

委員：もうなくなったものは仕方がないのですが、小島本陣がなくなってしまったことが一番残念です。だから先ほどおっしゃったように、わざわざ来た人が、何かもう少し宿場町を感じられるような仕組みができなくはないと思うのですが、そういった部分が非常に弱いです。また、もう2〜300m行ったらもう一つ本陣がありますよね。二つ本陣を構えているという宿場は本当に少ないので、そういった部分を強化していただきたいです。小島本陣は書いているけれども三大寺本陣の方は書いていないので。先日東海道シンポジウムに行ったら、他の地域の人熱心にやっているの、そういうところと交流すると、いい意味での真似をすれば同じようなものになっていくので、ぜひ湖南省からもっとたくさん参加していただいて、本来の石部宿まつりにしたいなと思っています。みんなでこの石部宿を盛り上げていきたいと思いますし、京都から出たときに、草津越して、石部宿泊してもらい、歴史的な人が実際に泊まっているので、こういう部分も深掘りしていきたいなと思っているので、今、ぜひ石部宿のことだけではなく東海道沿線をもう少し盛り上げて欲しいなという思いもあったので、委員の中に文化財審議会の委員さんがいらっしゃるとは知らず言ってしまいました。

ずっと言っているのですが湖南省に欠けている部分は市史編纂室がないところです。以前から湖南省検定を作りたいという話をさせていただいています。観光協会が作るの

もおかしいなと思っているのですが、ぜひそういった部分を作っていただけると、もっともっと湖南省も盛り上がると思います。歴史的に言ったら、ゾウのところからスタートして話題満載なのです。湖南三山なんて本当に国宝が充実している。湖東三山でも国宝のお寺は1個しかないですよ。湖南三山は三つとも国宝がありますから。そんな立派なお寺を備えているという部分も含めて、もう少しこの歴史の部分に基づいた、今の新しい観光を作りたいなと思っています。その辺の部分も関わっておられるのであれば、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

「歴史ある魅力発信」という部分で特設コーナーを図書館に作っていると書いてありますが、これも1回も議論に上がっていないので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

会長：生涯学習になる基盤のものっていうのは、僕は「ひと」と「もの」と、出来事「こと」とやと思っています。今も委員おっしゃったように、湖南省はたくさんものがあったり、歴史的なものがあったり、或いは出来事があったりするのですが、それを繋いでいくという人がなかなか育っていかないし、そこの人が育っていけば、おのずと市民の皆さんから、「ここ勉強してみようか」とか、「ここもう少し知りたいな」とか「こんなこと知っているよ」というようなことが繋がっていくと思います。それこそ湖南省全体の生涯学習の発展に繋がっていくのかなあというふうに思っています。

第1回目の会議でも湖南省で重要なものって何ですかと聞かせてもらおうと、皆さんでグループワークをしてもらったのは、僕はそういうものを我々が再発見して、それを育てていくというか、語り継いでいくというか、そういう基盤を作っていく必要があるのかなと考えておりました。

石部宿のことについても、今詳しくお話しいただいて、重要な値打ちのあるものやなあと思いますし、それをまたこの生涯学習という立場からいけば、どういうふうに生かしていけるのかということを考えていくと市民の皆さんの学習の場に繋がっていくのかなと感じさせていただきました。

委員：青少年育成学区民会議の方がされている活動に最近関わりがあって参加させていただくのですが、こんなに充実した内容を、しかも小学生中学生が繋がって、地域の人たちもたくさん来てくれて、本当に盛りだくさんすぎるぐらいでも内容が濃いなあと思うので、ぜひ、地域の人みんなに知って欲しいなと思います。先日広報で一面に紹介をしていただきましたので、どんどん紹介していただけたらありがたいなというふうに思いました。

また、保護者さんが家庭教育で悩まれているけれどなかなか相談相手がないとか話し相手がないというようなことについても、場づくりなどいろいろな形でバックアップしていくような体制ができたらいいなと思っていますのでよろしくお願いします。

会長：今のことに関連してでも結構ですし、その他のことでも結構ですのでもし湖南市の社会教育について、ご意見、ご質問等ございましたら続けてお願いします。

委員：図書館は、いろいろな作業が多すぎますね。本来は石部宿歴史民俗資料館の職員が担うべきものなので。どうしてもその部分が弱いから、図書館の方でいろいろ事業やられていますが、過重だと思う。本来の業務が損なわれる可能性がある。

私長浜の博物館で館長している時に、湖南市から借用で来られたのですが、その時も学芸員が来るのではなくて行政職員が来ましたが、本来博物館の中ではそういうことは許されない。学芸員が来て、手続きをして、借用するというのが普通ですけど、そういったこともできていないということがあります。

あと、気になるのは歴史民俗資料館ですね。あれだけの、建物があって、資料も持っていて、市民が見に行かないというのが最大のネックだと思います。会長もおっしゃっていましたが、「郷土に愛着を抱く」というのは、郷土のことを知ることだと思います。そして、その知る手段として最も効用なのが、歴史民俗資料館。現在入館料 350 円です。近隣の野洲にしても栗東にしても市民は全部無料です。だから、そういったことも含めて、もっと足が向くように、仕向けることが大事だと思います。

今も委員から意見がありましたけれど、石部宿の景観で失われたものがあそこに復元された。そういうものも、石部の宿とちゃんとリンクさせて、市民に知ってもらうことが一番大事で、そうすることによって石部宿ってこんなだったのだとか、いろいろなことがわかる。

小学生からも入館料取っていますが、多分減免で処理されていると思うのだけれど、子どもは少なくとも無料で良いではないですか。博物館法には入館料は無料にしないって書いてあります。石部歴史民俗資料館は博物館法が適用されないからいいっていう考え方もかもしれませんけれど、そういう考え方をしていただきたいですね。

あとは、市史編纂のお話も出ていましたが、担当の職員が商工観光労政課に行ってしまったのは、少し問題ではないかなと私自身は思います。

文化財審議会も商工観光労政課の中で開かれるわけですけど、ジャンル・積み上げが違うかなという気がします。だから、そういったことも併せて、お願いしたいと思います。ここの一覧表書いているものもあまり積極性が見えないです。項目の中でたくさん書いてあるのが、ずっとやっていないからやめましたと書いてあります。

市民としては望むものは、少しでも高いものを望みたいので、ぜひとも、これ自体発奮して、もう少し頑張っていたきたいなと思います。

会長：今、両委員の方からあったように削除しますとかいう部分については、なぜできていなかったのかとかいうことをもう一回教育支援課の方から、各課に問い合わせてください。より発展させていくためには、当然、解消して発展していく方法もあると思い

ますし、逆に、もうちょっとこれ、コロナでできなかったけれども形変えてやってみようかというようにしていただくのがいいのかなあというふうに思います。

委員：青春祭（あおはるさい）ありましたが、あれはどこが主催になっていますか。ここは関係ないですか。

事務局：教育委員会と青少年育成市民会議が共催でしています。

委員：意見を言う場がないので、ここで言わせていただきたいと思います。内容は非常にいいのですが、そのわりに学生が少ししか居なかったのが残念でした。また、「青春（あおはる）発表会」ならあれでもいいのですが、「青春祭（あおはるさい）」とするのなら、もう少しおまつり感があれば。せっかく「祭」とつけているので、子どもたちがたくさん来て、「ちょっとうるさい静かにし！」ぐらいの盛り上がりが見たいですね。内容はすごく良かった。「差別」の話なんて中学校1年生の子が、あそこまで話をするとほんと大変感動しました。もっと同年代の人に聞いて欲しい。ただ、それも大事だけど、盛り上がる部分も大事なと思いました。祭りにつけた以上は、祭りにしてあげないとねというふうに感じました。どの子の発表も本当にしっかりしていてすごいなと、本当に心強く感じました。彼女たち彼らが成長して、いろいろな問題に取り組んでくれるかなと思いました。

事務局：次年度で記念の20回目になります。

委員：ぜひお祭りにして欲しい。参加者が少ない感があつたのですが、自分たちで運営をしているところはとてもよかった。僕らは大人だから、車で集まることもできますが、ほとんど会わずにやっているのですか。

会長：今日聞いたら、5回ぐらい実行委員会をし、前日にリハーサルと当日の午前中に、もう1回リハーサルをそれだけでやってくださったみたいです。どちらかの学校であるときはもう一方の学校は送迎と、送迎も教育支援課の方がやってくださっていました。

委員：息もぴったり合っていましたし、良かったです。時間も絵に描いたようにほぼぴったり通りでした。感激もしましたし、せっかくいい発表なのに、少し祭り感が少ないのが難点かな。今日もどこかでチャンスがあれば言いたいなと思っていました。

会長：ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。

委員：4ページの真ん中の辺りに教育支援課の仕事が書いてあります。改定後のところに、

「市内の有形無形の文化財を次世代に継承していくため、保存と活用に関する基本的な方針を定める。」と書いてありますが、本当にやられるのですか。

事務局：この部分は教育支援課で、改定しましたが、これは湖南省の教育振興プランというプランが教育の大元の計画でありましてそこから抜き出したものです。実際に事業をするのは、文化財の担当の課で、この計画の目標に向かって事業をしていきます。

委員：これは商工観光労政課になるわけですね。だからこれ、絵にかいた餅ですよね。それは書いたら駄目ですよね。

そのあと一番下のところにも、「これらの記された図書や資料の収集に努め、図書館などにおいて保存提供を行います。」。これは本来、資料館の仕事、図書館に資料を収集しては駄目。もともとそういう施設じゃないです。

書籍類は図書館に置いても仕方ないですけども、規模の大きな図書館では、確かに資料も集めていますが、住み分けとして、資料館がないならまだしも、あるのだからちゃんとした収蔵庫の中に資料を保存するっていうのが、普通のやり方、考え方だと思います。この辺は実態に即して、きちんと整理し直さないと、これがこのまま出たら、何か勘違いされるというか、市民の方はそう思うてしまうと思います。

委員：資料館は今、指定管理で運営していますか。

事務局：そうですね。

委員：指定管理でやるのが正しいかどうかを逆に議論した方がいいですね。

委員：あれだけの施設だからもともと学芸員が石部の時は居たのですが有名無実化して、他のセクションに回されて、今に至っているわけです。これはもう文化財行政の間違い。ここは正していかないと、せっかくあれだけいいものを作っているのですから。

指定管理者は博物館のことよくわかった指定管理者だったらベターですが、現状を見ると、庭の整備とか、そういうことをしているだけですね。だから、これは資料館の指定管理にはふさわしくないというふうに思います。

会長：その他いかがでしょうか。それ以外にもございましたら、事務局の方に遠慮なくご連絡いただいたらと思います。どこまで盛り込んでいただけるかわかりませんが、今出ました意見をまた改定の方に反映させていただけたらと思います。

4. 「地域への愛着と誇りを育てる社会教育」 今後の方策について

会長：近畿地区社会教育研究大会滋賀大会の研究主題は、「地域への愛着と誇りを育てる社会教育」というテーマでした。前回、前々回と、生涯学習審議会で、この研究主題についての湖南市での取り組みについて、現状と課題、課題解決のための方策を話し合っていました。

今日は、社会教育委員として、今後市に期待する取り組みを話し合いたいと思います。

私は、先ほど言いましたように、「ひと」であったり「もの」であったり「こと」であったりを整理して誰もが学びたいな、あそこへ行ったら学べるのかというような資料館のことであったり、市史の編纂であったり、生涯学習していくためのベースとなるものが必要ではないかと感じています。新しく作るとなると大変ですので、今あるものをどう活用していくのかということが、非常に大事なのかなと。今日、前半の話を聞いていると、なんでも図書館に重なってしまっていたり、或いは、本来は別の者がしなければならないところが商工観光労政課の方で全部請負ってしまっていたりというような課題が見えてきたかなと思うので、その辺を、どう修正していくのかなというふうに思っています。

委員：7月5日の第1回審議会のグループ討議のときに何遍も出てきます、地域への愛着という部分は、歴史から出てくる部分を知ってもらうというのがその愛着の原点になっていく。

だから、三雲小学校の児童は参勤交代で使った東海道を自分たちの通学路として使っている。とてもすごいことなのですね。そういうことを参勤交代があったってということを教えたりすると、狭い道であったとしてもそこを歩いた記憶が頭の中に残って地域に対する愛着ができる。一旦外に出るけど、愛着のある町だから帰ってくる。帰ってくるふるさとが湖南市であって欲しいなというふうに思います。

そういった部分では、130年前に下田から比布町に行かれた人の思いとかも苦労して行かれた。そして、あの人達はこちらの空を見て、いつか帰りたいと思っていた人ばかりだったと思います。それが愛着に変わっていつているので、そういったことも、ぜひ次の世代に伝えてほしいと思います。比布と姉妹都市ということを知っている人はほとんどいないですね。昔の下田の人なら知っているかわからないですが、それ以外の人知らないなので、そういったことも伝えてあげると、北海道にも愛着がわくことと思います。

同和問題も少し下火になっていますが、しっかり起こして、しっかり教えないと中途半端に思っている人がいっぱいいるのですよね。ここはしっかりとキリをつけておかないといつまでたっても差別は消えないのかなというふうに思います。「青春祭（あおはるさい）」の中学校1年生の「差別」の話。ああいう子がいっぱい生まれてくれたら、まずその差別がなくなるということ。僕は残念ながら中学校の時にも差別で亡くなった人が

いるのですよ。そこはもうずっと心残りだね。同じ人間なので僕も同じ人間じゃないかなと思ったのですが、勉強したら全く同じ人間なのに、そこに差別が出ているということを知りました。一方、教育のおかげで、湖南省は意外と外国人の受け入れしてくれていることも事実です。他のところは外国人出て行けみたいなのところもあるのですが、湖南省はそういった教育のおかげで、今外国人の比率が7%超えたのですが、意外と受け入れています。だからそういった部分も受け入れられる差別のない、誰でも来てちょうだい、頑張った人が成長できるという住みやすい地域にもしていきたいと思っています。湖南省のいいところを伸ばしていく活動をしていただきたいと思います。

あと、観光ボランティアの方に案内していただいてよく勉強しておられるのがわかりやすいと書いていただいているのですが、あゆみの会の方は、本当によく勉強されています。実費分の費用弁償を出すようにして後継者を育てていってはどうかと思います。

今市内で、湖南省を知ってもらうためにゲームで覚えていくような仕組みを作ったら子どもたちも興味持ってやってくれるのではないかなというふうに言ってクラウドファンディングを立ててやってくれている人もあります。生涯学習課がすべきかどうかはわからないのですが、観光協会もそこに協力しようと思っています。

会長：ありがとうございます。そのほか皆さんの方からどうでしょうか。

委員：内容は違うのですが、なぜ図書館は二館から一館を進められているのですか。

委員：今、市の財政を考えると両方を残すことは無理なので、ご理解いただきたいのですが、その理解をしてもらうにあたって不便をどう解消するかという議論は必要です。だからそれはコンパクトシティ化して、4つに分けようとしておられます。今まで石部にあったものがなくなることに対しての、救済措置はしていけないといけないので、ここはもっと議論はすべきだというふうに思います。

事務局：今、湖南省で進める小規模多機能自治という、4つの中学校区に分けて、1つの組織にして、より一層サービスを高めていきたいと思いますというのがねらいです。

委員：本当はそのときに新しいものに図書館がなっていればよかったのですが、庁舎を建て替えないことになってしまったので、改装だけに終わっています。

事務局：これからさらにまだ議論を進めていけないといえない部分であります。

委員：今、石部のこの辺りでは、「壊す」とか「なくす」とか「合併」とか急に降ってわいてきた話みたいにいる人が多いです。タウンミーティングに初めて参加したと

きに一つにするということを知りました。変な言い方ですけど、そんなの知らないって思いました。私は社会教育委員、今回1期目で入らせていただいて2年目なのですが、社会教育委員になってもギリギリになってそういう話を開示するなんて…。それにしても、こんな時期になってからこうやって資料に少し書いてあるだけで、読んで知って何か社会教育委員になったのにとってもショックを受けて、とても寂しい気持ちになりました。図書館を利用していても知らなかったから。

委員：少なくとも合併後にここに來た人は知らない。

委員：甲西と石部とそれぞれの利用されている方が違うのです。少し居場所づくりとしての役割がそれぞれ違うように見えるのです。甲西図書館は建物も大きいですし、所蔵されている本も多いですし、私もたくさんの本を借りたいときは確実に甲西に行きます。「借りに行くだけの場所」みたいな感じです。石部図書館の方は、ちっちゃいお子さんを連れてゆったりとそこで過ごされている感じなのです。何かそれぞれの地域カラーみたいなのがあったりするのではないのでしょうか。

委員：まさに今おっしゃった地域の場所づくりとしては、小規模多機能自治になれば、その部分は絶対残しとかなないといけませんよね。ミニ図書館みたいなものを作っていくとか、すべての本はそろわないのですが、一部の方はそろえて、遊びに行けるようなところが新しくできますのでね。

事務局：まだ具体的なものではなく、これからまた議論していくところですけどね。

委員：子どもさんがそこに上がってもいいようにちょっと積み木とか置いてあって、本が置いてあるプレイスペースのような場所があまり湖南省にはないですね。

委員：図書館の魅力は、本があることもそうですが、図書館司書という専門職員がいるということですね。図書館司書がいて、ちゃんと本のことをわかってくれていて、おっしゃるように本を準備してくれて、またどんな本が欲しいっていうときには、ちゃんとアドバイスをしてくれる。建物と司書ってというのは、一体化して、それを分離するといろいろな弊害が出てくると思います。また1館となって、遠くになると高齢者が行けるのかどうかという心配がでてきます。

委員：湖南省は小さいようで結構広いですからね。

委員：徒歩で行けるってところに何かがあるっていうのは心強いですね。

委員：巡回バスもすごく大きなバスが走っているじゃないですか。一定人数の方が乗っておられるので通勤通学に必要なサイズなのかもしれないけれど、もうちょっと車ぐらいのサイズのタクシーで保健センターとか行きやすいようになったらいいと思います。

委員：親子で歩いて行けるって魅力的ですよ。孫の手を引いて行けるというのが魅力なのだろうと思います。それがまちづくりの根幹と違うかなというふうに思います。

委員：そう考えると、コンパクトシティ化していかないと。それが小規模多機能自治になるので。それが皆さんに伝わっていないのですよね。中央に施設があるよりは頭脳だけがあって、普段行けるのは、近いところっていうのは理想的なのですね。それはまず4つやってみて、足りなければそれ8つに変えるというのもありかなというふうに思うのですが、歩いて行けるとか、本当に身近に行けるっていうのは非常に大事なことなので。

委員：私は合唱活動をしているのですが、特にクラシック音楽は敷居が高いと言われるのですが、大劇場で聴くよりも地域の文化ホールで聴いたりとかすると、親近感がわいたり距離が近くなって、クラシックもなかなかいいじゃないかみたいな感じになって、それでファンがつくこともあります。愛着を持つのに一番大切なのが距離感なのかな。歩いて行ける距離。目の前というか本当に近いと、近さを感じることによって、愛着も深まってくるのではないのでしょうか。

会長：いろいろお話はつきないですけど、また続きは、次回ということで、すみません。本当にありがとうございました。

5. 今後の事業予定

会長：今後の事業予定について事務局から説明をお願いします。

事務局：（今後の事業予定（案）について説明）

6. 次回の会議日程について

次回会議日程 3月7日木曜日に決定 開始時刻については調整する

会長：会議の内容については教育委員との懇談会の報告。「令和5年度湖南市の社会教育」について今日ご議論いただいた部分と、他にも話し合いたい内容がございましたら、事務局の方にご連絡いただけたらと思いますが、そのような形でよろしいですか。教育委員さんとの懇談会については、例年通り定例教育委員会の後に行うということで、定例教育

委員会の日程が決定しましたら、事務局から案内がされるということで、よろしくお願いします。

7 その他

会長：その他皆さんの方から何かございますか。

(意見等なし)

8 閉会

会長：それではこれをもちまして、令和 5 年度湖南省生涯学習審議会、第 2 回会議を閉会します。委員の皆様、大変お疲れ様でした。

【閉会 21 : 10】